

学校名	研究課題	研究手法
金沢市立花園小学校	国語	学習評価の充実

1 研究の重点と具体的な取組

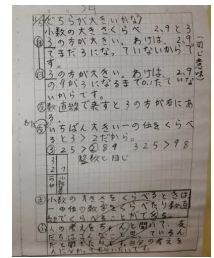
(1) 重点1 関わり合って考えを深める指導の工夫

国語科において、児童が主体的に関わり合って考えを深めるために、ねらいに沿って、目的、内容、形態を明確にした交流活動を取り入れる。また、考えを深めるための交流活動の有効性について研究授業を通して明らかにする。



(2) 重点2 学習評価の充実に向けての評価方法の工夫

授業のねらいに迫ることができたかどうか評価するために、交流場面や振り返り場面において、児童の発言やノートを通じて評価をする。そして、研究授業を通して、発達段階に応じた評価方法について検討し、定期的に見直し、改善する。



(3) 重点3 家庭との連携

学校研究において、取り組みの重点や家庭学習の取り組み方についての理解と協力が得られるように、「学習の手引き」の配布やスクールフォーラムなどを通じて発信する。

2 取組の検証

(1) 重点1 関わり合って考えを深める指導の工夫

児童アンケート、教員アンケート、外部講師の指導助言による検証を行った。

<1>何のためにペアやグループで話し合うのかを理解して話し合っていた。	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
	62.8%	30.1%	4.5%	2.6%

<2>話し合う活動によって、自分の考えを深めたり、広めたりすることができた。	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
	47.4%	35.1%	14.3%	3.2%

①児童アンケート（後期）

アンケート<1>の肯定的な回答は92.9%であることから、目的を明確にしてペア・グループ活動ができていたと言える。これは、教師と児童が活動の目的を共有することができていたからであると考えられる。一方、アンケート<2>の肯定的な回答は82.5%であることから、話し合う活動の良さが実感できるような話し合いにする必要があると考えられる。

②教員アンケート

「話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりすることができるよう工夫している」の教員アンケートの結果は、肯定的な割合が7月は90%、12月は100%であり、意識して話し合う活動を取り入れていることが分かった。また、セルフチェックや週案でも、活動を位置づけた授業を行っていることが分かった。しかし、ねらいに沿った活動であったか、目的意識のある活動であったかなど、活動の質については吟味する必要がある。

③外部講師による指導助言

交流活動については以下の3点の指導助言をいただいた。

- ・ねらいを明確にし、ねらいに沿った活動になるように教師がしっかりと教材研究を行うこと
- ・児童が自分の考えを広めたり、深めたりするなどの目的や必要感のある活動にすること
- ・全体交流の後に再思考のための交流活動を設定することも考える。

(2) 重点2 学習評価の充実に向けての評価方法の工夫

教員アンケート、研究授業整理会での協議で検証を行った。

①教員アンケート

授業のねらいに迫ることができたかどうかを評価するために、交流場面や振り返り場面での児童の発言やノート点検を行った。「学習課題に照らし合わせてまとめ、振り返りを書くように指導できたか」の肯定的な回答は前期75%、後期92.3%であった。前期は、振り返り場面を設定することができないことがあったが、意識して取り入れ、書くことができるようになってきた。しかし、児童が変容を自覚できるように、振り返りの方法や書き方などについて検討する必要である。

②授業整理会での協議

授業整理会においては、以下の3点が今後の課題として挙げられた。

- ・学習を振り返る場面を設け、児童が変容を自覚できるようにするために、教員のタイムマネジメントが大切であること
- ・児童が振り返りをする際には、板書が手掛かりになるよう工夫し、児童の変容を大切にすること
- ・単元のまとめの時間において、付けたい力が身についたかななどの視点で、児童が振り返りできるようにすること

(3) 重点3 家庭との連携

保護者アンケートで検証を行った。「学年に応じた学力を身に付けている」、「授業は分かりやすいと言っている」という質問では、いずれも肯定的な回答は84.6%となっていた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・児童は交流活動を通して、積極的に自分の考えを広めたり、友達の考えを聞いて考えを深めたりしようとする姿がみられた。
- ・児童が関わりを持ちながら考えを深めることができるよう、教員が交流活動の目的をはっきりと位置づけた授業を目指し、共通実践することができた。
- ・教員がタイムマネジメントを強く意識することで、振り返り場面を設けることができ、また、児童も友達の考えや振り返りを書くことが習慣化してきた。

(2) 課題

- ・教員は、よりよい交流活動にするために、児童が自分の考えをノートに書くことができるような手立てを考えること
- ・児童が話し合うことの良さ、変容の自覚が実感できるように、教員が児童の考えを価値づけるための工夫を考えること
- ・教員は教材研究をしっかりと行い、ねらいに沿った、目的、内容、形態を明確にした交流活動を目指すこと

